

大会主題及び趣旨

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る

日本人の育成を目指す小学校教育の推進

～夢や知を育み、共に未来を拓く子どもの育成に向けた学校経営の推進～

大会趣旨

【趣 旨】

近年、国際社会におけるグローバル化や知識基盤社会への急速な変化の中で、「絆」社会の喪失や価値観の多様化などに伴う様々な問題や混乱が顕在化してきている。また、少子高齢化や国際的な緊張感の中で、先行き不透明感や閉塞感が広がり、大人のみならず子どももまた、未来に向け夢や希望をもちにくくなってきている。

このような社会の変化や直面する諸課題をふまえ、全国連合小学校長会は平成 25 年度からの研究主題のもと、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視する「生きる力」を育むとともに、課題を乗り越えるためのしなやかな知性と豊かな創造性など新たな「知」を発揮して、人間性豊かな社会の構築に貢献できる日本人の育成を目指してきた。さらに今年度からは、新学習指導要領全面実施を節目として、研究主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」に改め、その実現を目指し取組を進めているところである。

さて、子どもは明るく豊かな社会を築くための未来の力であり、希望である。私たち大人は、子ども一人一人が未来に向けて豊かな「夢」をもち、その「夢」をエネルギーとして、仲間と共に心豊かにたくましく生きていってほしいと願っている。また、子どもたちの将来を支える基礎的・基本的な学力や豊かな体験を通して社会に対応する実践力等を育むと同時に、豊かな人間性を含んだ総合的な「知」を身につけてほしいと願うものである。そこで、学校教育においては、夢や目標をもつ力などの「自分を高めるために必要な力」や、地域や社会に貢献しようとする強い意志など「主体的に社会参画するために必要な力」を育んでいくことが必要である。

ところで、既に教育の場においても、子どもたち一人一人の良さと可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成することが求められている。そのような中、私たち校長には、新学習指導要領の理念を十分に理解し、確かな先見性に基づく明確なビジョンの策定とその実現に向けた学校経営力が必要とされている。また、同時に、学校の全ての教職員や家庭及び地域とそのビジョンを共有しながら、具現化に向けた教育活動に取り組んでいく協働のチームづくりも求められている。今こそ、私たちは、教育における不易と流行を見据えながら、校長として、教育を構想する力や組織を構築・運用する力などを磨き、情熱をもって、強いリーダーシップを発揮していかなければならない。

そこで、本大会では、副主題に「夢や知を育み、共に未来を拓く子どもの育成に向けた学校経営の推進」を掲げ、確かな実践を積み重ねる校長としての責務と指導性を追求することとした。

分科会（領域・研究課題・趣 旨）

＜研究領域 I 学校経営＞

第1分科会 経営ビジョン

【研究課題】

未来を見据えたビジョンに基づく学校経営の推進と校長の役割

【趣 旨】

近年、グローバル化や「絆」の喪失など社会が急変する中、先行き不透明感や閉塞感も相まって、子どもたちは未来に向けて夢や希望をもちにくくなってきている。このような状況の下、学校教育においては、これからの知識基盤社会を生き抜き、仲間とともに未来を拓いていくための活力ある学校経営の推進が求められている。

そのためには、まず、学校・地域の歴史や現状を十分に把握するとともに世界の動向や時代の潮流、教育の方向性を的確に読み取る必要がある。次に、それらをもとに、自分を高めるために必要な力や主体的に社会参画するために必要な力など、現在、そして、未来に生きる子どもたちに育みたい力を明確にした上で、中・長期的な展望も視野に入れ、実現への道筋がより分かりやすい学校経営ビジョンを構想していくことが重要である。さらに、そのビジョンを全職員や家庭及び地域の人たちとより深く共有し、夢をふくらませながらその実現に向けて協働して教育活動を推進していく必要がある。

そこで、本分科会では、校長が豊かな見識と確かな教育理念に基づき、学校経営構想力を発揮して、未来を見据えた明確な経営ビジョンに基づく活力ある学校経営を推進していくための具体的な方策を究明していく。

＜研究の視点＞

- 視点1：未来にわたる教育課題の的確な把握と明確で分かりやすい経営ビジョンの策定について、その方策を究明する。
- 視点2：未来を見据えた経営ビジョンの実現に向け、皆で夢を共有し協働する学校経営の推進の在り方を究明する。

第2分科会 組織・運営

【研究課題】

未来を見据えた活力ある組織・運営と校長の役割

【趣 旨】

近年、「絆」社会の喪失・少子高齢化や国際的な緊張の中での不透明感や閉塞感が子どもたちを取り巻いている。このような状況の下、夢や目標をもって主体的に学ぼうとする強い意志や学習意欲とともに、学んだことを生かして社会に参加・貢献しようとする力や社会規範を意識して自分を律する力などをもった子どもを育成する学校組織や学校運営が求められている。

そのためには、未来を見据えた創意ある学校経営ビジョンの具現化に向け、個々の教職員の役割や責任を適切に分担し、互いの力が相乗的に発揮できるような組織づくりを行っていかねばならない。また、教職員一人一人が組織の一員としての自覚をもち、学校経営ビジョンを共有し、目標の達成に向かって評価・点検を絶えず実施して、活力ある学校運営を推進していく必要がある。

そこで、本分科会では、校長として組織を構築する力や運用する力などを発揮して、未来を見据えた学校経営ビジョンの具現化を図る学校組織・学校運営の在り方と校長の役割について具体的な方策を究明していく。

＜研究の視点＞

- 視点1：教職員一人一人の力を有効に活用し、それらを結集して学校経営ビジョンの具現化を図るための組織づくりについてその方策を究明する。
- 視点2：教職員一人一人が学校経営ビジョンを共有し、組織として教育的成果を上げることのできる運営の在り方を究明する。

第3分科会 評価・改善

【研究課題】

未来を見据え学校経営に生かす評価・改善の推進と校長の役割

【趣 旨】

変化が激しく先行き不透明で将来の展望がもちにくい現在の社会にあって、子どもたちが将来への夢をもち、総合的な「知」を身に付けていくことが必要とされてきている。こうした中、学校では未来を見据えて学校経営ビジョンを策定し、学校運営に反映していくとともに、その取組状況について繰り返し評価・改善を行い、社会の変化に即応した活力ある学校運営を推進していくことが求められている。

そのためには、学校経営ビジョンをより明確にするともに、目標達成状況や課題を的確に把握し、教育課程や学校運営の計画、組織体制づくりなどに生かす実効性の高い評価・改善が必要となる。また、学校経営ビジョンを保護者・地域なども共有し、連携しながら評価・改善を行うことで、学校教育への信頼を深め、多くの協力を得て、教育効果を高めていくことが重要である。こうしたマネジメントのサイクルを実践していくことは、学校経営ビジョンの信頼性を高め、協働的な学校経営を促進すると考える。

そこで、本分科会では、校長として学校経営構想の力や評価・改善の力などを発揮し、未来を見据え学校経営に生かす評価・改善の推進について、具体的な方策を究明していく。

＜研究の視点＞

- 視点1：明確な学校経営ビジョンをもとに教育実践を行い、目標達成状況や課題を的確に把握し、学校経営の充実を図る評価・改善の方策を究明する。
- 視点2：保護者・地域への公表を含め、学校経営に係る様々な取組と有機的に関連させた、協働的な評価・改善の方策を究明する。

＜研究領域 II 教育課程＞

第4分科会 知性・創造性

【研究課題】

未来につながるしなやかな知性・豊かな創造性を育む教育の推進と校長の役割

【趣 旨】

科学技術の高度化や国際化の進展に加え、少子高齢化の急激な進行による社会的活力の低下、人間関係の希薄化などが進行し、先行きの不透明感や閉塞感が一層強まっている。こうした予測困難な社会に柔軟に対応し、たくましく生き抜くためには、単に知識や技能の獲得だけではなく、互いの個性や絆を大切に、課題を乗り越えるためのしなやかな知性と豊かな創造性の育成が求められている。

そのためには、子どもたちが基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、それを活用しながら課題解決に向けて柔軟に粘り強く思考し表現することによってさらに思考を深め、共に高め合うことのできるより質の高い学習指導が展開されなければならない。また、先見性ととともに、柔軟な思考や粘り強さ、協働して課題を解決する力、新しい知恵や技術、ものを生み出そうとする力を育成する教育課程を編成・実施し、成果と課題を生かした教育課程の改善を絶えず図ることが重要である。

そこで、本分科会では、校長が教育を構想する力や評価・改善する力などを発揮し、しなやかな知性と豊かな創造性の基礎を育む教育の推進について具体的方策を究明していく。

＜研究の視点＞

視点1：課題解決のための柔軟な思考や粘り強さ、共に高め合う態度などを育む学習指導と評価の在り方を究明する。

視点2：問題の本質を正しく把握し、協働して課題を解決できる力や、新しい知恵や技術、ものを創造できる力を育むための創意ある教育課程の在り方を究明する。

第5分科会 豊かな人間性

【研究課題】

未来に生きる子どもたちの人間性を育む教育の推進と校長の役割

【趣 旨】

価値観の多様化が進み、先行き不透明感や閉塞感が広がる現代社会にあって、これからの社会を生き抜いていく子どもたちが、夢をもって自らよりよい生き方を模索していくためには、自らを律しつつ自己を確立するとともに、他人を思いやる心や感動する心、生命や人権を尊重する心など、「生きる力」の核となる豊かな人間性を育むことが求められている。

そのためには、学校における教育活動全体を通じて、道徳教育や人権教育を基盤とした豊かな心の教育の充実を図っていくことが重要である。道徳教育においては、規範意識や自尊感情を高めるとともに、自らの生き方や新しい社会を切り拓いていくことができる力を育むよう、指導体制を確立し、機能的・系統的な教育を推進していくことが大切である。また、人権教育においては、個人の尊厳や自他の生命を大切にすることなど、基本的な人権について単に知的に理解するだけではなく、人権がもつ価値や重要性を共感的に受け止めることができるような感性や人権感覚が身に付くよう、指導の一層の充実を図っていかなければならない。

そこで、本分科会では、校長が教育を構想する力や評価・改善する力などを発揮し、豊かな人間性を育むための教育を推進していく具体的方策を究明していく。

＜研究の視点＞

視点1：教育課程の改善などの動向も踏まえながら、家庭や地域との連携を図り、子どもの内面に根ざす豊かな心を育む道徳教育の在り方を究明する。

視点2：人との絆を深め、他人と共によりよい社会を築こうとする共生の態度を育むよう、学校や地域の実態に即した心に響く人権教育の在り方を究明する。

第6分科会 健やかな体

【研究課題】

生涯にわたって健やかな体を育む教育の推進と校長の役割

【趣 旨】

近年の急速な社会の変化は、私たちを取り巻く環境を大きく変え、子どもたちの生活や成長に大きな影響を及ぼし、基本的な生活習慣の乱れや肥満、生活習慣病、アレルギー性疾患などの健康課題や体力・運動能力の低下・停滞などの状況を生じさせている。また、喫煙や薬物乱用による健康被害の低年齢化も危惧される。こうした現状においては、子どもたちが、自分の健康に関心をもち、生涯にわたり自らの健康を育もうとする能力や態度を培うことが求められている。

そのためには、子どもたちが生涯を通して、健やかに成長していく基盤として、家庭・地域との連携を深めながら、運動・栄養・休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立を図っていくことが不可欠である。また、子どもたちが未来に夢を描き、心豊かで活力ある生活を送るために健康や運動について関心を高め、体育科の授業や体育的な活動、遊びなど多様な運動を通して、主体的に実践する能力や態度を育むことが重要である。

そこで、本分科会では、校長として教育を構想し、評価・改善する力や連携・協働する力などを

発揮し、健やかな体を育む教育の推進について具体的方策を究明していく。

＜研究の視点＞

- 視点1：子どもの発達段階や家庭・地域の実態を踏まえながら、基本的な生活習慣の確立を図る健康教育を推進する上での校長の果たすべき役割について究明する。
- 視点2：基礎的な体力や生涯にわたって運動に親しむ習慣を身に付けさせ、健やかな体を育む上での校長の果たすべき役割について究明する。

＜研究領域 Ⅲ 指導・育成＞

第7分科会 研究・研修

【研究課題】

未来に生きる子どもたちに必要な力を育む研究・研修の推進と校長の役割

【趣 旨】

グローバル社会や知識基盤社会などへと急激に社会が変化するとともに、家庭や地域の教育力も弱まり、学校教育を取り巻く課題が一層複雑化・多様化してきている。こうした中、学校や教職員には、これからの時代を生きる子どもたちに、自分を高めたり主体的に社会に参画したりする力を育成するための質の高い教育活動を推進していくことが求められている。

そのためには、先見性と洞察力をもって教育課題を設定し、その課題解決に向けてチームで取り組みながら、教職員一人一人が指導力や実践力、専門性や人間性を向上させることができる研究・研修体制などを構築する必要がある。同時に、教職員の世代交代が進む中、これまで培ってきた指導法などを若い世代に伝えていくことも急務である。また、校長自らも常に資質・能力の向上を図りながら、教職員一人一人が、特性や力量、分掌などに応じて研究・研修に取り組むことができるよう指導・助言し、個々のキャリアプランに沿って学び続ける意欲をもたせなければならない。

そこで、本分科会では、校長として組織を構築・運用する力や人材を育成する力を発揮して、学校の教育力や個々の教職員の資質・能力の向上を目指した研究・研修の在り方について究明していく。

＜研究の視点＞

- 視点1：教育目標の実現や課題解決のためにチームで取り組み、相互に指導力などの向上を目指す質の高い教職員集団を育成する研究・研修体制の在り方を究明する。
- 視点2：教職員一人一人が自らの課題や展望をもち、専門職としての知識や技能、指導力や実践力、人間性の向上などを目指す研究・研修の在り方を究明する。

第8分科会 リーダー育成

【研究課題】

これからの学校を担うリーダーの育成と校長の役割

【趣 旨】

近年、「絆」社会の喪失や価値観の多様化などに伴う様々な問題や混乱が顕在化してきている。このような中、将来にわたって子どもたちに夢や目標をもたせ、豊かな知性や感性を育むことのできる教職員組織が必要であり、その中心を担うミドルリーダーや管理職人材を計画的に育成していくことが求められている。

そのためには、学校組織の中核となるミドルリーダーには、指導力や判断力などを高めさせるとともに、これからの社会に求められる人材育成について明確なビジョンをもち、具現化していく実践力をもたせなければならない。また、将来の学校の経営、運営の要となる管理職候補には、組織を束ねていく力量とリーダーシップが必要である。そのため早期にその資質を具備した者を見出すよう心がけるとともに、OJT、校外研修、自己啓発研修など様々な方策を講じて、豊かな人間性に基づく高度な経営者意識をもった人材の育成を図っていくことが重要である。

そこで、本分科会では、これからの学校を担うミドルリーダーや管理職を担う人材を育成するために、校長の果たすべき役割や指導性を究明していく。

＜研究の視点＞

- 視点1：ミドルリーダーに求められる資質を幅広い視野でとらえ、実践力をもった人材を育成するための校長としての役割や指導性を究明する。
- 視点2：学校組織の中で、管理職を担う人材を意図的・計画的に育成するための方策について、校長としての役割や指導性を究明する。

＜研究領域 Ⅳ 危機管理＞

第9分科会 学校安全

【研究課題】

命を守る安全教育・防災教育の推進と校長の役割

【趣 旨】

近年、甚大な被害をもたらす大規模自然災害や、子どもが巻き込まれる想定外の事件・事故が頻発し、子どもの安全そのものが脅かされる状況が見られる。すべての教育活動の前提となる子どもの安全を図るため、学校は、安全・防災の観点から危機管理体制を見直し、施設設備の点検及び改善を進めるとともに、個々の学校・地域の実情を踏まえた効果的・実践的な安全教育・防災教育の充実・推進が求められている。

そのためには、自分の命を自分で守るという意識をもって、安全・防災に関する知識・技能を進んで学び、多様なリスクに対応できる判断力・行動力をもった子どもを育てていかなければならない。また、自らの地域を自らの手で守ろうとする意識をもって地域の安全・防災に関わり、次世代の地域防災の担い手となる子どもを、家庭・地域・関係機関との協働・連携の中で育成していかなければならない。

そこで、本分科会では、校長として教育を構想する力や連携・協働の力を発揮し、自立的な危機回避能力と地域防災の担い手として社会参画していく力をもった子どもを育てるため、命を守る安全教育・防災教育をどのように推進していくか、校長の果たすべき役割や指導性を究明していく。

<研究の視点>

視点1：個々の学校・地域の実情を踏まえ、自立的な危機回避能力をもった子どもを育成する効果的・実践的な安全教育・防災教育の在り方を究明する。

視点2：次世代の地域防災の担い手として、地域の安全・防災に関わることができる子どもを、家庭・地域・関係機関との協働・連携の中で育成するための方策を究明する。

第10分科会 危機対応

【研究課題】

子どもの健全育成と危機対応における校長の役割

【趣 旨】

学校は、子どもたちの健やかな成長と自己実現を目指して教育活動を行うところであり、その基盤として安全・安心な環境が確保されている必要がある。しかし、いじめ、不登校、暴力行為、虐待などの問題は依然として深刻であり、さらに近年、不審者の侵入、食物アレルギーなど新たな事案も増加しつつある。このような状況の下、校長は教育活動のあらゆる場面で危機が生じる可能性があるという意識をもち、様々な危機への対応を想定して学校経営にあたることが求められている。

そのためには、危機管理を学校経営の中に明確に位置付けた上で、常日頃から、危機の予測・未然防止・危機発生時の対応・再発防止のプロセスに沿った学校の危機管理に取り組むことが必要である。また、リスクを低減し、危機の発生を抑制するため、教職員一人一人が危機管理を日常業務の基盤と認識しつつ教育活動や業務を行うことが重要である。

そこで、本分科会では、校長が危機を管理する力や組織を構築・運用する力を発揮し、児童の健全な育成と様々な危機への対応を想定した学校経営にあたるために、果たすべき校長の役割や指導性について究明していく。

<研究の視点>

視点1：危機を予測・回避するとともに、危機発生時には被害を最小限度にとどめ、再発を防止するための適切な対応の在り方について究明する。

視点2：教職員一人一人が高い危機管理能力を有する組織・体制づくりについて究明する。

<研究領域 V 教育課題>

第11分科会 社会形成能力

【研究課題】

これからの社会に向けた社会形成能力を育む教育の推進と校長の役割

【趣 旨】

今、核家族化や少子高齢化が一層進み、人間関係が希薄になり、家庭や地域において子どもたちの社会性やコミュニケーション能力、規範意識などを育むことができにくくなっている。このような状況の下、学校には、他者と協力することの大切さを教え、よりよい社会を協働して形成しようとする能力や態度を育むことが求められている。

そのためには、学校は、地域の特色を生かした体験的な学習活動を積極的に取り入れ、その中で、子どもたちが多様な社会の課題に触れたり、その解決に向けて地域で一定の役割を担ったりしながら、社会の一員としての自覚や自発性を身に付けさせていくことが大切である。また、キャリア教育などの視点を取り入れた教育活動により、規範意識をはじめ社会的・職業的自立に必要な力、コミュニケーション能力などを身に付けさせることが求められている。

そこで、本分科会では、校長として教育を構想する力などを発揮し、子どもたちに、各教科など

で身に付けた知識や技能などをもとに、よりよい社会の形成に向け、主体性をもって積極的に社会に参画し、課題を解決する能力や態度を育むための具体的方策を究明していく。

＜研究の視点＞

視点1：自己の役割を果たし、社会に参画・貢献しようとする意欲や態度を育む教育を推進する上での校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

視点2：社会的・職業的に自立するための基盤となる能力・態度を育むキャリア教育を推進するための校長の役割と指導性を究明する。

第12分科会 自立と共生

【研究課題】

自立と共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進と校長の役割

【趣 旨】

近年、特別な支援を必要とする子どもが増加し、障害の多様化・重複化の傾向も見られる。このような状況の下、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の充実と推進が重要視されている。学校教育においても、障害の有無に関わらず、互いに尊重し支え合い、人々の多様な在り方を認め合える力を育成し、子どもたちの自立と社会参加を目指した特別支援教育を一層推進させていくことが求められている。

そのためには、学校は、特別な支援が必要な子ども一人一人のもてる力を高めるために、実態に応じた適切な学習環境の整備や必要な支援を行うことのできる多様で柔軟な支援体制を構築したり、学校間、関係機関などとの連携を図ったりすることが必要である。また、学校は、障害者理解の指導を意図的かつ継続的に行うと同時に、障害の有無に関わらず、子どもたちが共にふれあい活動する機会を積極的に設けるなど、相互に理解し支え合って生きていく共生社会の形成を目指した教育を推進していくことが大切である。

そこで、本分科会では、校長として様々な課題へ対応する力や連携の力などを発揮し、子ども一人一人の自立と共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進について、校長の果たすべき役割や指導性を究明していく。

＜研究の視点＞

視点1：特別な支援が必要な子ども一人一人の自立に向け、適切な学習環境の整備や支援を行うことのできる多様で柔軟な支援体制や連携の在り方を究明する。

視点2：障害に対する正しい理解と認識を促すための教育や、同じ場で共に学ぶ交流及び共同学習の積極的な推進の在り方を究明する。

第13分科会 社会との連携・協働

【研究課題】

家庭・地域などとの連携と異校種間の接続の推進と校長の役割

【趣 旨】

家庭の教育力の低下、地域のつながりの希薄化などが指摘される中、子どもたちの基本的な生活習慣の欠如、規範意識やコミュニケーション能力の低下などが課題となっている。学校においても、いじめや不登校、暴力行為などの諸問題が依然として深刻である。また、小学校入学時や中学校入学時に学習や生活の変化になじめず、学校不適応となることが課題となっている。このような状況の下、家庭や地域などと連携し、一体となって子どもたちを育成するとともに、異校種間で円滑に接続できるようにすることが求められている。

そのためには、学校、家庭、地域などがそれぞれの責任を自覚し、役割を明確にしながら、子どもたちの育ちと学びを支える教育環境をつくるとともに、互いに連携して家庭や地域の教育力の向上に取り組む必要がある。学校は、保護者や地域などに対してきめ細かい情報提供・情報発信を行いながら相互理解を深め、双方向の関わりの中で、それぞれのもつ教育機能が高まるようにしていかなければならない。また、保幼小中間の学びの連続性の確保に向け、育みたい子どもの力について共通理解し、なめらかな接続を図りながら、将来を見据えた長期的な教育活動を推進することが重要である。

そこで、本分科会では、校長としての教育を構想する力、連携・協働する力などを発揮し、家庭や地域などとの連携、異校種間の円滑な接続を推進するための具体的方策を究明していく。

＜研究の視点＞

視点1：開かれた学校づくりを基盤とし、家庭や地域などと相互理解を深め、連携しながら、より充実した教育活動を展開するため、校長として果たすべき役割と指導性を究明する。

視点2：連続性を重視した保幼小中の円滑な接続、小小連携を推進する上での校長として果たすべき役割と指導性を究明する。